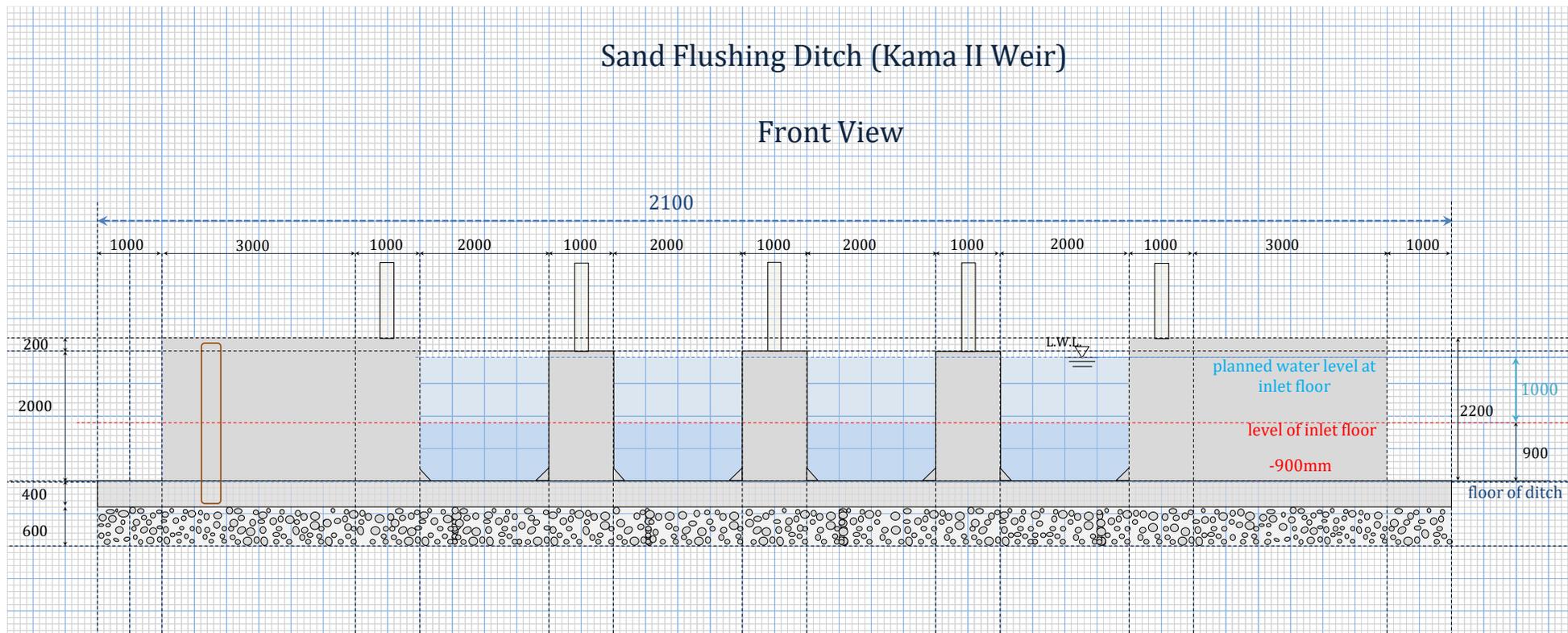
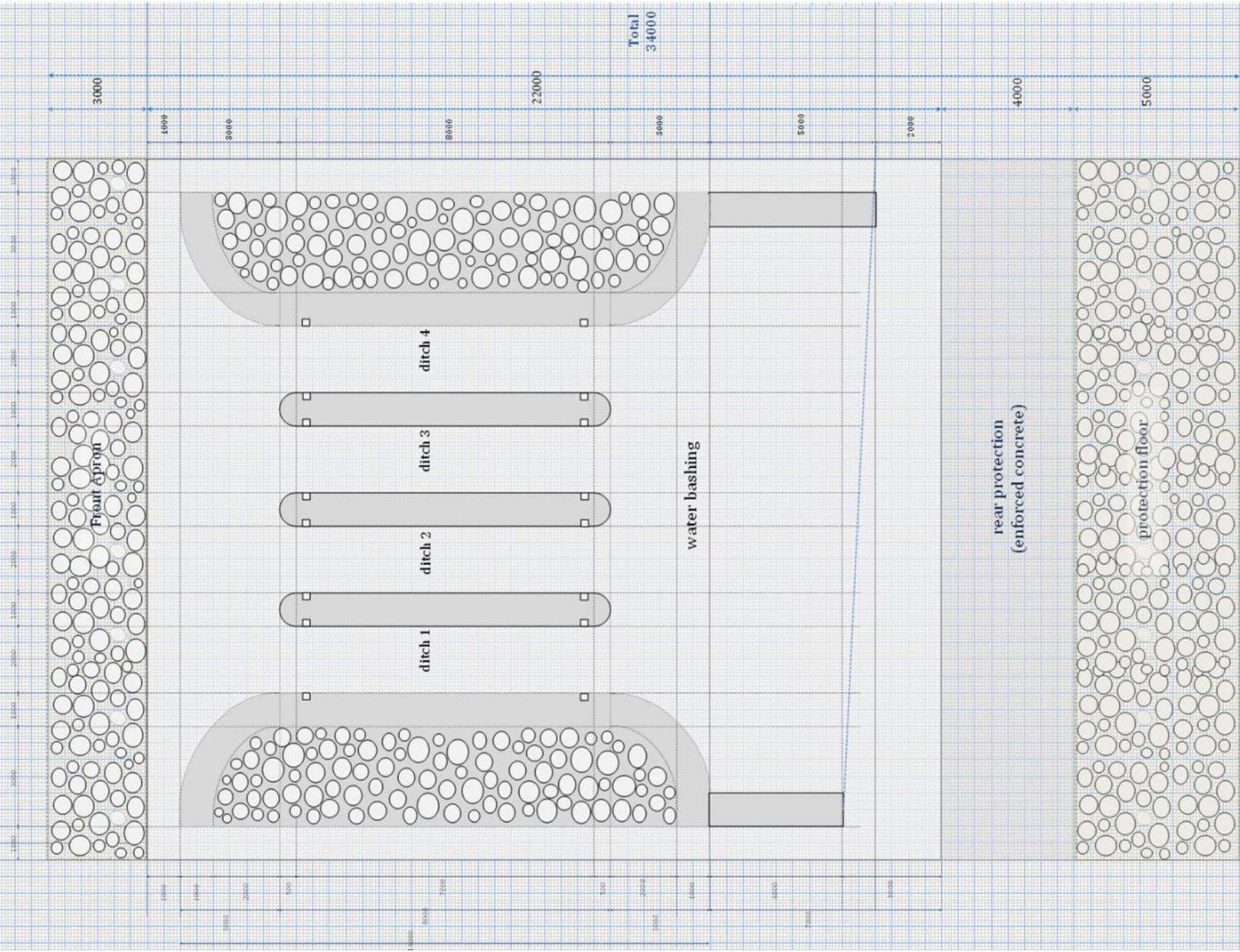


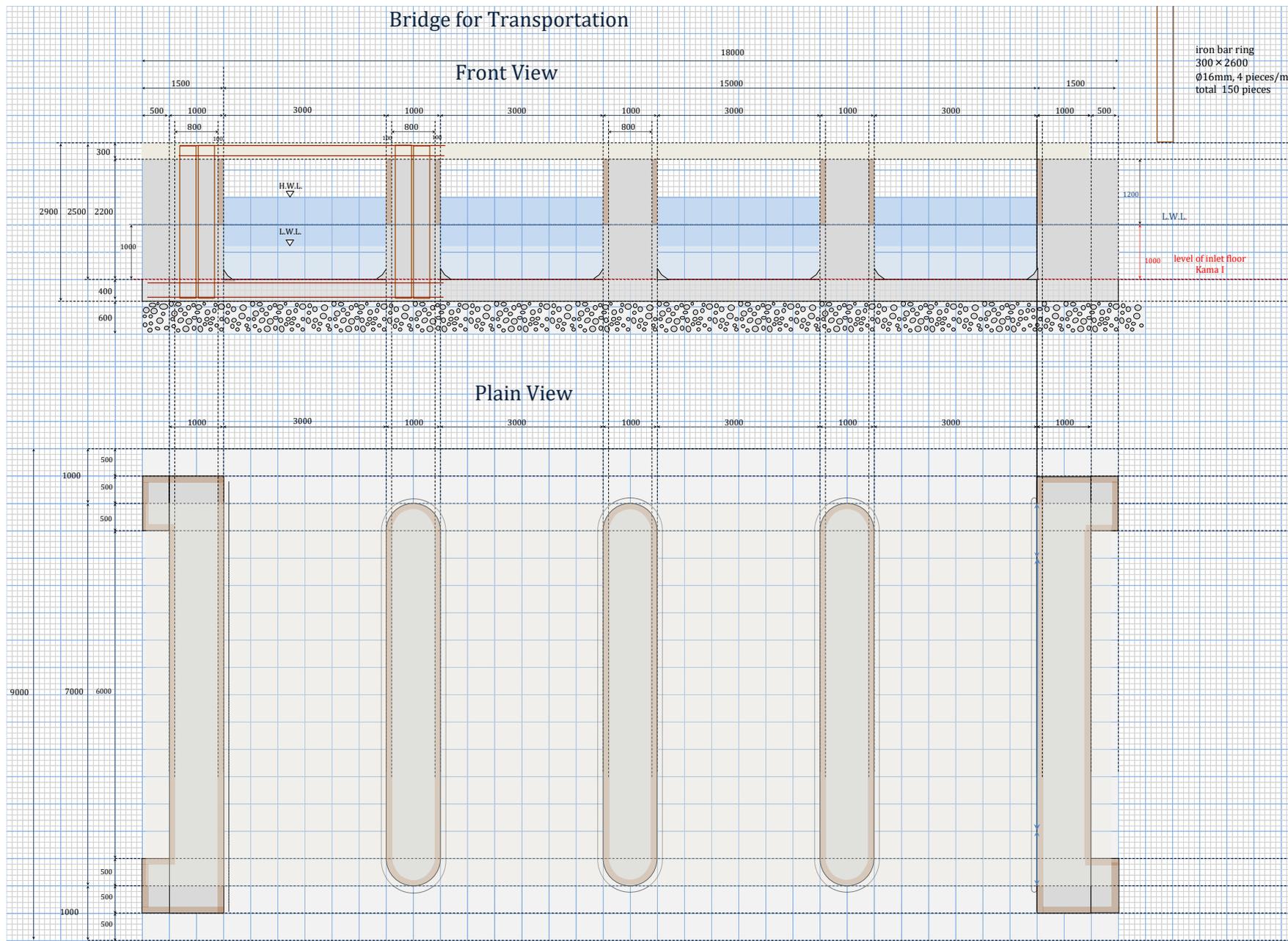
固定堰部分はマルワリード II (カチャラ) の堰とほとんど同じである。冬期の河川水量の 20~25%前後を受け持てば、同様の結果が得られると期待される。

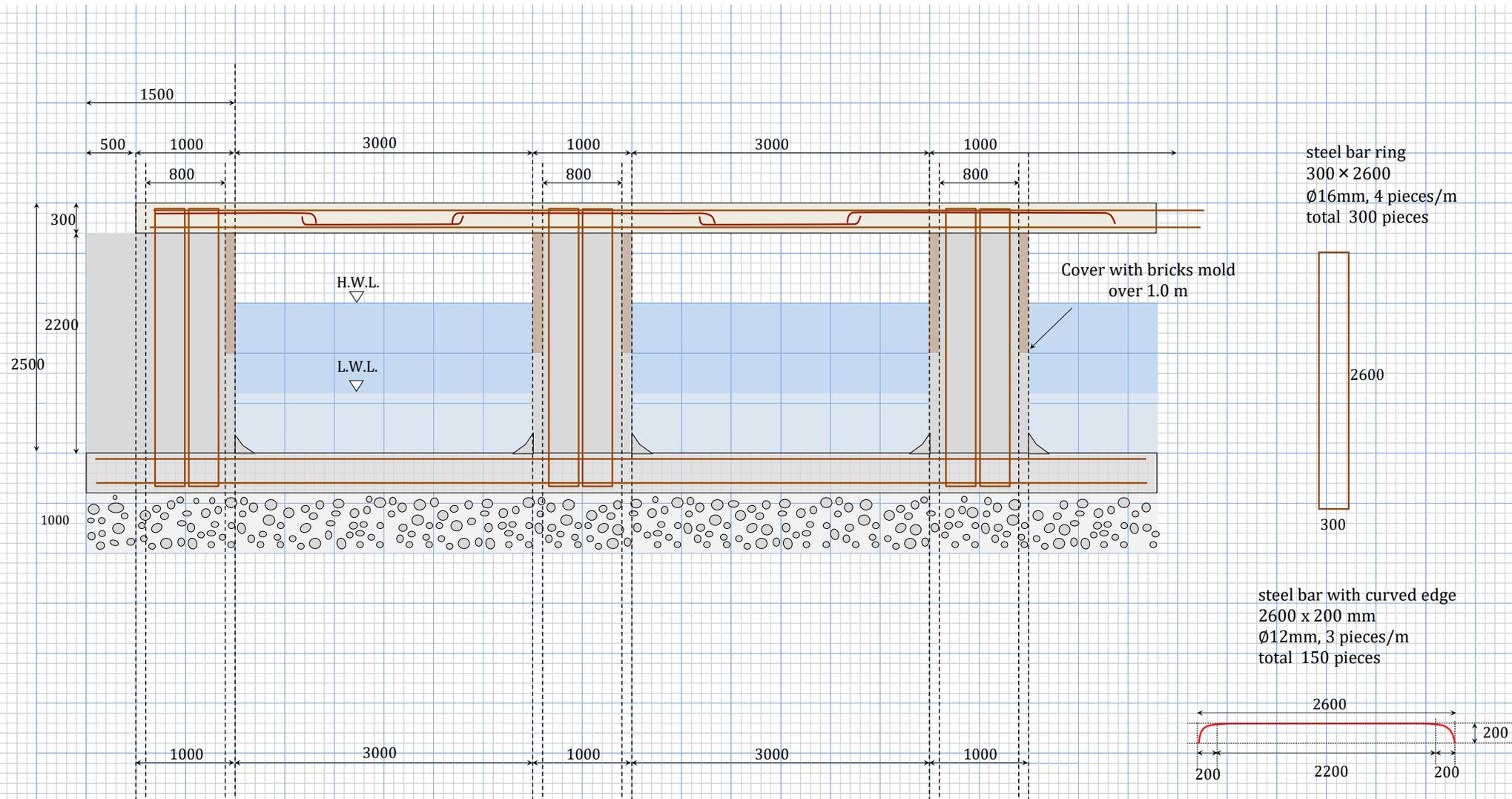


Plain View

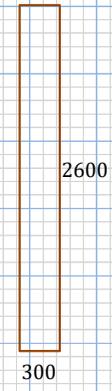


ベースド側傍流は河道幅が約 25m前後、冬期の同河道の水量が通過するように設置する。使用するのは冬期の低水位期だけで、一般交通路は考えない。設置の仕方によっては固定堰と同様の働きをして河道を固定し、水量安定に役立つと期待できる。



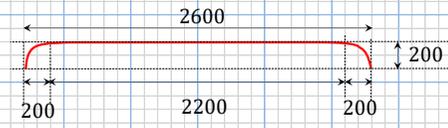


steel bar ring  
 300 × 2600  
 Ø16mm, 4 pieces/m  
 total 300 pieces



Cover with bricks mold  
 over 1.0 m

steel bar with curved edge  
 2600 × 200 mm  
 Ø12mm, 3 pieces/m  
 total 150 pieces



現カマ第二堰。三度にわたる改修でずいぶん安定はしている。今回は異常低水位の不安もあって、部分固定堰（鉄筋コンクリート製の土砂吐き）を導入、万全を期する。現堰幅約 140m、堰長 25～70m。河道幅が狭いので堰幅を増すのは限界があり、固定堰と洪水吐を組織的に組み合わせて対処するもの。2017年 3月 31日

